

新潟県立がんセンター新潟病院 地域医療連携だより

NEWSLETTER



平成 31 年冬号



基本理念

県民をはじめとする全ての患者さんに、最善のがん医療を提供します。

基本方針

1. 常に診療情報を開示して、患者さんとの信頼関係をもっとも大切にします。
2. がん診療連携拠点病院として、すべての医療機関と連携を密にします。
3. がんの研究を行うとともに、患者さんのための医療人の育成に努めます。
4. 病院運営の適正化と効率化に努めます。



Contents

- 新年のごあいさつ
- アルビレックス新潟
院内ビューイング開催報告
- ボランティアコンサート
- 入院支援センターのご案内
- 感染管理認定看護師のご紹介
- 平成 31 年 2 月 外来診療予定表

新年のごあいさつ



院長 佐藤 信昭

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本年4月30日には30年間続いた平成は終わり、新しい元号となります。

現在、がんは国民の二人にひとりが経験する国民病である状況はしばらく変わらないものと思われます。がんは1981年から死因の第1位で、最近では総死亡の約3割を占めるようになりました。しかし、がんの治療成績は向上しています。5年生存率は1993年～96年の53.2%から06年～08年の62.1%へと上昇しています。がんは必ずしも不治の病ではなく、がん治療しながら慢性的につきあう病気、ともに生きる病気となりつつあります。第3期がん対策推進基本計画ではがん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指すことを全体の目標としており、がん予防、がん医療の充実、がんとの共生の三本の柱があげられています。がん医療は治す医療から、治し・支える医療へと意識を変革する時代を迎えています。

20～64歳の働く世代のがん患者は24万人で、仕事をしながら通院で治療を受けている患者は31万4000人（16年）と推計されています。当院ではがん治療と仕事の両立を支援するため、医療従事者（主にがん相談員）による就労相談に加え、ハローワークナビゲーターや産業保健総合支援センター促進員による出張相談事業との連携など、支援体制を充実していきます。

緩和ケアはがんと共に生きるために、がんと診断された時からその重要性がますます高まっています。当院では、がん患者さん、家族を支える緩和ケア病棟を2019年2月から開設します。新しい病棟では、集中的に緩和ケアを提供するとともに、質の高い緩和医療に関する研究も行い、未来の緩和ケアを担う多職種の人材を育成することに努めます。

がん医療を充実するため、がんゲノム医療連携病院の選定を受けました。がんゲノム医療はがんの遺伝情報（ゲノム）を解析して、最適な治療法を決めるものです。欧米に比べ立ち遅れているがんゲノム医療体制を速やかに、国民皆保険制度の下で整備することが求められています。がんゲノム検査キットの製造販売が承認され、今後保険収載される見通しです。ゲノム検査の結果をもとに薬剤を選択すれば効率的な治療に結びつく可能性があります。一方で、ゲノム検査の結果、最適な薬剤が見つからないケースも少なくありません。これらの情報を正しく伝えていくことも必要です。

医療を取り巻く環境が目まぐるしく変化するポスト平成時代の幕開けにあたり、あらためて、県民をはじめとする全ての患者さんに、最善のがん医療を提供するという基本理念を職員一同で共有し日々の診療にあたりたいと考えます。

本年もまた皆様のご指導、ご支援をよろしくお願い致します。



看護部長 内藤綾子

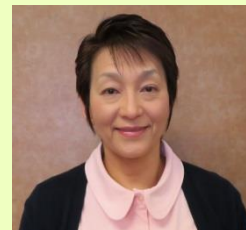
年頭に当たり、新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より、当院へご支援、ご協力いただきまして大変にありがとうございます。

超高齢少子社会・多死時代に向けて、「地域包括ケアシステム」の構築が各地域の状況に応じたかたちで進められています。「時々入院、ほぼ在宅」から今は「稀に入院、ほぼ在宅」に変わってきていると言われるように、当院の在院日数もさらに短縮してきております。この短い入院期間の中で治療を完結することは至難であり、「治し支える医療」・「地域完結型」を目指すために、益々私達は地域と連携していかなければならないと強く感じております。

また、単身や高齢化の問題の中に、複数の疾患を同時に持つ患者さんや背景が一層複雑になってきている現状があり、看護師は患者さんを総合的にとらえて、質の高い医療・ケアを効率的に提供するためのマネジメント力を一層磨いていかなければならないと感じております。

昨年は緩和ケア病棟開設のための工事等で、皆様方には大変なご迷惑をおかけし、ご協力をいただきました。緩和ケア病棟は2月1日から21床でオープンする予定です。さらなるトータルなケアの推進と充実、さらに都道府県がん診療連携拠点病院として役割遂行に一層努めて参りたいと思います。今後も地域の医療機関や関係機関の皆様からのご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



リハビリ技師長 外立功

リハビリテーション（以下リハビリ）科は、理学療法士4名、作業療法士2名、言語聴覚士2名の8名体制で、スタッフ全員が規定の研修を修了し、また理学療法士4名は呼吸療法認定士を取得しています。ちなみにスタッフは皆経験豊富で何事にも柔軟に対応しています。

平成22年度の診療報酬改定でがん患者リハビリ料が新設され、がん患者のQOL向上や社会復帰の支援、治療中のみならず治療前後の運動療法、治療による有害事象の対応、緩和ケアが主体となる時期の疼痛、呼吸苦、全身倦怠感などの症状緩和や在宅療養生活の支援など、ニーズがますます拡大しています。このような中で、がんのリハビリは、がんの治療と並行して行われ、診断された早期からどのような病状や状況でも受けることができ、治療のどの段階（予防的、回復的、維持的、緩和的）においてもそれぞれの役割があります。リハビリ科では、医師、看護師をはじめ関係者と情報を共有した上で、ニーズに応えられるようにコミュニケーションを図りながら進めています。

昨年度からリハビリ科では、がんに特化した医療機関と共同でがん患者さんに対するリハビリについて研究を行っています。これからは、治療中においてもリハビリの必要性がより一層高まり、より良い療養やQOLを支えるがんのリハビリが進められると思います。

最後に、リハビリ科では、がん診療連携拠点病院の役割の一つとして、専門的ながんのリハビリの情報や実臨床における経験をもとにした情報発信をこれからも行っていきたく思います。今後とも地域の関係機関、関係者からのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



アルビレックス新潟 病院内ビューイング開催！

J2リーグ
AWAY 徳島 VS 新潟

去る2018年11月11日、アルビレックス新潟様の主催、DAZN様のご協力のもと、J2リーグ徳島 vs 新潟の病院内パブリックビューイングを開催しました。スタジアムに行けない入院患者さんと病院関係ボランティアスタッフからの熱い熱い声援を届けることができました。



早川選手とアルビ君、ボランティアの皆さん

また、背番号28番の早川史哉選手のサプライズ登場に、当院の会場は歓声に包まれました。早川選手は参加者の皆さんとふれ合ったり、ご自身の体験をお話しされ、病気と向き合っている方々へエールを送って下さいました。

試合は引分けでしたが、闘志あふれるプレーが随所にみられました。アルビレックス新潟と早川選手を、これからも病院から応援します。

がんばれアルビレックス！
ありがとうアルビレックス！



ボランティアによるコンサート

小児科病棟の患者さんを対象に、アマチュア人形劇サークル「ぶんちゃかちゃ」の方から人形劇や大道芸などを披露していただきました。

人形劇の他にクイズや紙芝居などもあり、盛りだくさんの内容で親子一緒に楽しいひとときを過ごされていました。

南京玉すだれの実演もあり、普段なかなか目にするのでできない華麗な手さばきに参加された方は目をうばわれていました。

平成30年6月19日(火)
人形劇サークルぶんちゃかちゃ



平成30年10月21日(日)
コーラスにじいろ

コーラスにじいろの30人の皆さんによる合唱を披露いただき、約50人の参加がありました。

明るい曲から賑やかな曲まで幅広い曲目で、年代問わず会場の皆さんに楽しんでもらうことができました。歌だけでなく踊りのパフォーマンスもあり、会場を沸かせていました。

フルートアンサンブルフィリアによるクリスマスコンサートがあり、会場の参加者は80名でした。平日の開催ということもあり、入院中の方だけでなく、外来通院中の方も多く来場されていました。

フルートとピアノの美しいハーモニーによって、きよらかなクリスマスの雰囲気会場をつつみました。クリスマスソングや懐かしい童謡などがあり、親しみやすい曲目で、皆さん口ずさみながら楽しく参加されていました。



平成30年12月20日(木)
フルートアンサンブルフィリア

入院支援センターのご案内

入院支援センター 看護師長 鈴木なつき

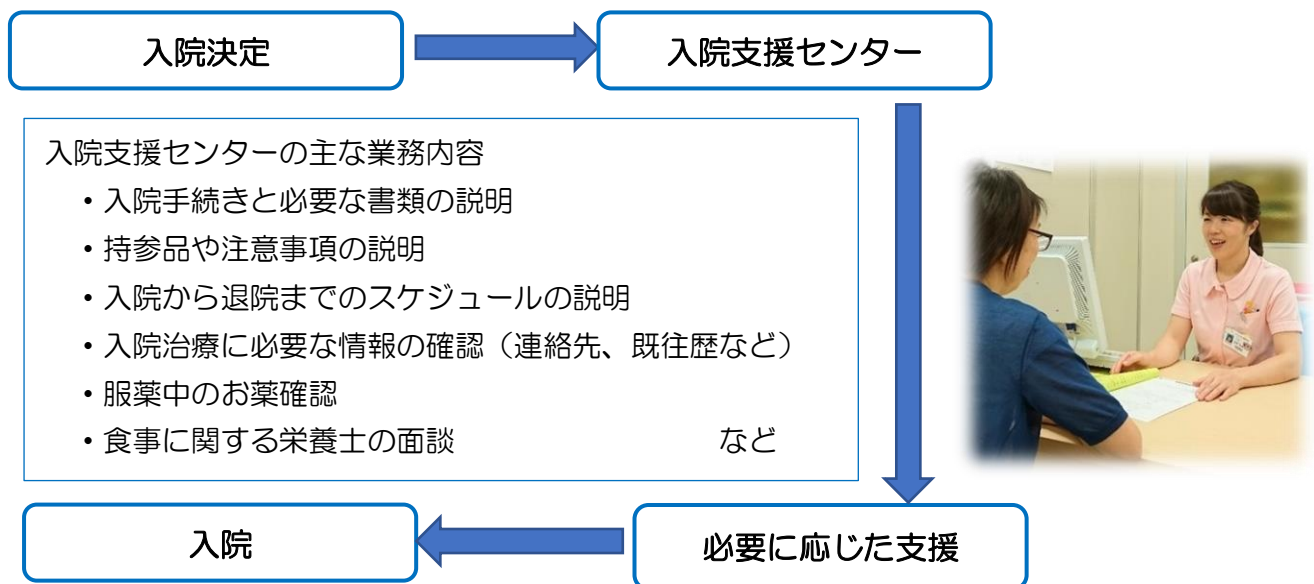
当院では、平成29年1月に、患者さんやご家族へのサービス向上を目的に入院支援センターを開設し、入院前からの患者支援を行う体制を整えてきました。以前は入院後に行っていた各種オリエンテーションを入院決定時に行い、早期に患者さんやご家族の疑問や不安に対応して、安全に安心して入院治療を受けることができるよう取り組んでいます。また、退院後の生活を見据えて、必要に応じた支援を各専門職種（医療ソーシャルワーカー、退院調整看護師など）と連携した支援を行っています。

当センターは、現在14診療科を対象としており平成30年4月～12月の対応件数は約3,000件です。将来的に全診療科の入院患者さんに利用していただく計画としています。

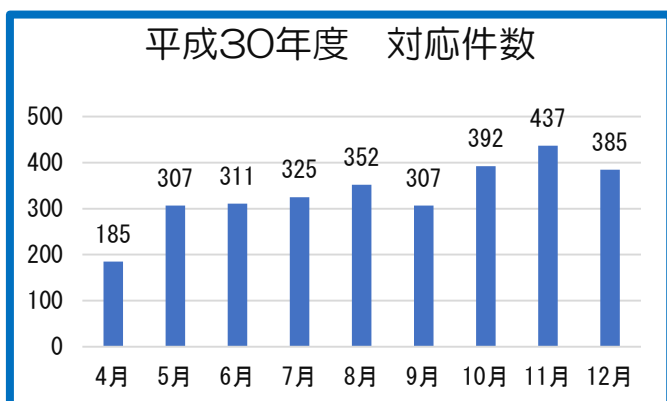
入院決定からの流れ

入院が決定したら、当センターで入院から退院までのスケジュールや持参品、注意事項について説明を行います。また、栄養状態の把握や食物アレルギー確認のために栄養士の面談も行っています。

当センターは、事務員、看護師、栄養士の体制ですが、他部門（相談支援センター、外来、病棟、薬剤部など）と連携し、それぞれが専門性を発揮し、患者さんの入院支援に取り組んでいます。



これからも入院支援センターは、患者さんやご家族が安全・安心な入院生活を送ることができるよう支援してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



感染管理認定看護師のご紹介

感染管理認定看護師 小山 和子

私は平成 30 年度の 4 月から、専従の感染管理認定看護師として活動しています。これまで、看護業務を行うなかで感じていた、感染防止対策の疑問を学習し、理解して現場に活かしたいという思いから感染管理認定看護師の資格を取得しました。医療の現場は毎日様々な出来事があり、教科書で学んだ通りにはいきません。「現場では」「うちの病院では」「この場合は」、と応用を利かせなくてはならない事ばかりです。院内感染防止対策チームや看護部感染委員のメンバーをはじめ、周りのスタッフの助けを借りながら、患者さんご家族、職員を感染から守る役割を果たすよう頑張っています。

当院に通院、入院されている患者さんは、化学療法等の治療により抵抗力が弱ることで感染症にかかりやすい方が多いと考えられます。院内の職員が一丸となり感染防止対策を行い、患者さんを守っていかねばなりません。しかし、感染対策はやみくもに行えばよいというものではありません。その施設の特徴をふまえた対策が必要です。当院で言えば、『感染症の心配なく、がんの治療や療養に専念できる』ことが患者さんご家族にとって一番重要なことと考え

ます。そのためのポイントは手指衛生です。すべての職員が適切なタイミング・量・方法で手指衛生を行うことができれば、大半の感染は防げるといっても過言ではありません。当院では看護師、看護助手は個人用の擦式アルコール製剤を携帯し、毎月使用量を調査しています。インフルエンザの流行期に入った現在（2018 年 12 月下旬）は、外来やエレベーター前に擦式アルコール製剤の設置を増やし、患者さんご家族、面会に来られた方が使用できるようにしています。院内の多くの部署から感染防止対策への相談があると嬉しく思います。現場の声やアイデアを聞き、一緒に対策を考えていく姿勢が私のスタンスです。

また、職員の職業感染防止と職員が媒介とならない対策も重要です。現在は、流行性ウイルス疾患などの抗体価測定やワクチン接種の奨励を重点的に行っています。



院内感染防止対策チームのメンバー

感染防止対策は、目に見えない病原菌が相手です。「まあ、いいか」では抵抗力の弱った患者さんは負けてしまいます。ひとり一人が、『医療のプロフェッショナルとして感染から患者さんと自分を守る』という意識を強く持ち、継続できるようにスタッフと協力し合い役割を果たしたいと考えています。「感染管理認定看護師はその施設の底力よ」と尊敬する感染管理の大先輩が教えてくれました。患者さんご家族、職員のために底力になれるよう、努めたいと思います。

カンファレンスの様子



新潟県立がんセンター新潟病院 平成31年2月外来診療予定表

		月	火	水	木	金
内科 (金曜日は新潟大学より)	401診	D 張 高明	A 成澤 林太郎	D 廣瀬 貴之	D 栗原 太郎	B 小山 建一
	402診	C 大倉 裕二	D 今井 洋介	C 大倉 裕二	D 石黒 卓朗	D 今井 洋介
	501診	F 谷 長行	F 谷 長行	F 谷 長行	F 谷 長行	F 谷 長行
	502診	A 青柳 智也	E 大山 泰郎	A 小林 正明	E 大山 泰郎	B 三浦 理
	601診	B 田中 洋史	A 栗田 聡(隔週)	B 三浦 理	A 栗田 聡	B 田中 洋史
	602診	A 塩路 和彦	A 井上 良介	A 佐々木 俊哉	A 塩路 和彦	C 高山 亜美(午前) C 尾崎 和幸(午後)
	201診	B 呼吸器内科医師		B 梶原 大季		B 馬場 順子
	新患 (医師2名 隔週交替) ↓*参照	A 成澤 林太郎	B 小山 建一	B 田中 洋史	C 大倉 裕二	A 塩路 和彦
		F 谷 長行	D 石黒 卓朗	D 今井 洋介	D 廣瀬 貴之	D 張 高明
	*新患は2名の医師が担当します。当日の担当医については内科外来にお問い合わせください。					
A: 消化器 B: 呼吸器 C: 循環器 D: 血液 E: 内分泌 F: 糖尿病						
小児科	1 診	小川 淳	渡辺 輝浩	阿部 咲子	小川 淳	渡辺 輝浩
	2 診		第3週専門外来(14:00~)	第3週甲状腺外来	専門外来(11:00~ 1週は移植外来)	阿部 咲子
*新患は紹介状が必要です。						
乳腺外科 消化器外科	1 診	長谷川 美樹(乳腺)	藪崎 裕(胃)	野村 達也(肝胆膵)	中川 悟(食道・胃)	丸山 聡(大腸)
	2 診	金子 耕司(乳腺)	松木 淳(胃)	瀧井 康公(大腸)	番場 竹生(食道・胃)	野上 仁(大腸)
	3 診	遠藤 麻巳子(乳腺)	會澤 雅樹(胃)	神林 智寿子(乳腺)	森山雅人 (腫瘍内科):午後	
	4 診		角田 知行	高野 可赴(肝胆膵)	井田 在香	林/眞鍋/山田
	予防センター-乳腺		金子 耕司	長谷川 美樹	神林 智寿子	神林 智寿子
*乳腺外科は原則予約制です。						
呼吸器 外科	1 診	吉谷 克雄	青木 正	岡田 英(AM10時まで)	青木 正(AM10時まで)	吉谷 克雄
	2 診		岡田 英			岡田 英
整形外科	新患	吉谷 克雄 骨転移外来 梶野/佐々木(隔週交替)	梶野 宏史	小林 宏人	佐々木 太郎	平野 貴文
	再来	小林 宏人	佐々木 太郎		梶野 宏史	小林 宏人
*完全紹介制です。						
神経内科(新潟大学より)		齋藤奈つみ		二宮 格		
精神科(午前のみ)			小林 真理		小林 真理	小林 真理
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。完全紹介制・完全予約制です。						
脳神経外科	1 診	高橋 英明		五十川 瑞穂	高橋 英明	五十川 瑞穂
	2 診	五十川 瑞穂		高橋 英明	五十川 瑞穂	高橋 英明
	3 診					宇塚 岳夫 (4週の午後)
婦人科	1 診	横尾 朋和	菊池 朗(午前)	菊池 朗	横尾 朋和	吉田(1,3,5週) 横尾(2週) 菊池(4週)
	2 診	吉田 邦彦	高橋 宏太郎	吉田 邦彦	菊池 朗(予約のみ)	高橋 宏太郎
	3 診		笹川 基(午前)	遺伝性乳がん 卵巣がん外来 (大学・西野)	遺伝性乳がん 卵巣がん外来 (大学・須田)	
皮膚科	1 診 (主に新患)	高塚 純子	結城 大介	竹之内 辰也	竹本 景太	高塚(1,3,5週) 結城(2,4週)
	2 診 (主に再来)	結城 大介	竹之内 辰也	結城(1,3,5週) 高塚(2,4週)	高塚 純子	竹之内 辰也
	3 診	竹本 景太	竹本 景太	竹本 景太	結城 大介	竹本 景太
泌尿器科	1 診	谷川 俊貴	乾 幸平	齋藤 俊弘	齋藤 俊弘	谷川 俊貴
	2 診	小林 和博	山口 峻介	小林 和博	山口 峻介	乾 幸平
*新患は紹介状が必要です。						
眼科	1 診	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭
	2 診			佐藤 敬子(午前)	佐藤 敬子(午前)	佐藤 敬子(午前)
頭頸部外科	1 診	佐藤 雄一郎(再来)	富樫 孝文(新患)		佐藤 雄一郎(新患)	倉橋 崇史(新患AM)
	2 診	高橋 剛史(新患)	高橋 剛史(再来)		富樫 孝文(再来)	
	3 診	富樫 孝文	倉橋 崇史		高橋 剛史	
放射線 治療科	1 診	杉田 公	杉田 公	杉田 公	杉田 公	杉田 公
	2 診	松本 康男	松本 康男	松本 康男	松本 康男	松本 康男
	3 診	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本
*木曜日・金曜日は新患の対応ができない場合があります。						
麻酔科	1 診	富田 美佐緒	富田 美佐緒	富田 美佐緒	高松(1,3,5週) 富田(2,4週)	渋江 智栄子
	2 診	渋江 智栄子	高松 美砂子	渋江 智栄子	渋江 智栄子	高松 美砂子
	術前	高松 美砂子	阿部 崇	阿部 崇	阿部 崇	阿部 崇
形成外科		2,4週 13~14時(再来)		坂村 律生	坂村 律生	
緩和ケア科	午前/午後	本間 英之	中島真人	本間 英之	中島真人	本間 英之
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。						
*原則新患1日2名になります。新患依頼は外来へお問い合わせください。						
歯科口腔外科 (日本歯科大学より)		午前/午後	午前/午後	午前/午後	午前/午後	午前/午後
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。						

※ 変更となる場合がありますので、事前にご確認ください。(電話:025-266-5111)

新潟県立がんセンター新潟病院 地域連携・相談支援センター(地域連携部門)

TEL:025-234-0011 FAX:025-234-0022 受付時間 月~金 8:30~19:00

がんセンター新潟病院 URL: <http://www.niigata-cc.jp>

原則として予約日当日に行える検査はCT、腹部超音波、MRI、食道・胃・十二指腸内視鏡、PET-CT

時間外のFAXについては、平日夜は翌朝、金曜夜から日曜は月曜の朝にお返事申し上げます